

八ヶ岳通信

■総合博物館

平成22年度企画展「茅野市の古代～縄文時代と現代を繋ぐもの～」

平成22年7月17日(土)～10月11日(月)

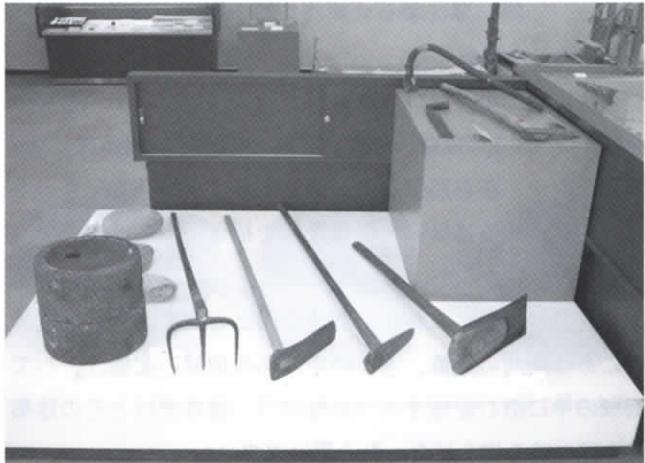
茅野市は古くから尖石遺跡をはじめとする縄文時代遺跡の多いところとして知られたところです。平成に入ってから八ヶ岳山麓で行われたほ場整備事業により、「仮面の女神」が出土した中ッ原遺跡などさらに多くの遺跡が多数発掘調査され、縄文王国と呼ばれるにふさわしいすばらしい資料が私たちに提供されました。

一方、それに続く古代の遺跡についてみると、現在の市街地と遺跡が重なっているためか、大規模な発掘調査が行われることはほとんどありませんでした。しかし、近年の区画整理事業や個人住宅の建設などで、家下遺跡や構井・阿弥陀堂遺跡、上原城下町遺跡などが調査され、徐々にその様子が明らかになりつつあります。

今回の企画展では、そうした茅野市の古代にスポットを当て、縄文時代から現代まで連綿と続いてきた私たちの祖先の生活を紹介しました。

縄文人は現代人の直接の祖先、言い換えれば現代人は縄文人の子孫であるといわれていますが、5000年前の縄文時代はあまりにも遠い昔で、現代とは全く違う世界のものと思われている人が多いのではないでしょうか。そこで博物館では、縄文時代以降の茅野市で発見された遺跡や遺物を通して、また博物館に収蔵する民俗資料なども駆使して、縄文時代が現代とほとんど変わらない生活様式を有していたことを理解し、身近なものにすることを目的とし展示を試みました。

これまでの博物館では、遺跡から発掘された資料は考古展示に、収集した民俗資料は歴史展示に分けて展示していました。今回は、道具として同じ機能を持つと考えられる資料を並べて展示してみました。そうすると、材質こそ粘土で作られる素焼きの土器から鉄製の鍋や釜に、あるいは石を打ち欠いて作った石器から鉄製の鍬や鎌などに変わるもの、同じような形をしたものが使い続けられていることがわかります。



藤森照信展 諏訪の記憶とフジモリ建築

2010年に開館30周年を迎えた茅野市美術館では、当市出身の藤森照信の展覧会を2010年7月24日から8月29日まで開催いたしました。藤森照信は1946年生まれ。高校卒業まで茅野市で過ごし、東北大学、東京大学大学院に進学。その後、近代建築史・都市史研究の第一人者として多くの業績を残し、1998年には日本建築学会賞（論文）を受賞しています。2010年3月まで東京大学生産技術研究所教授を務め、同年4月より工学院大学建築学科教授を務めています。

一方、藤森照信は、茅野市で神長官守矢史料館（1991年）を設計し建築家としてデビュー。自然素材や植物を用いて、これまでに20作品以上の独創的な建築を創り続けています。また、藤森、友人、施主からなる「縄文建築団」が建築施工に参加し手作りすることも特徴となっています。そして『ニラハウス』で1997年に第29回日本芸術大賞、『熊本県立農業大学校学生寮』で2001年に日本建築学会賞（作品）を受賞。2006年の第10回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展では日本館のコミッショナー（兼出品者）に就任、自身の建築と、路上から観察できる森羅万象を対象とし、本来の意図とは異なる無用の「美」を採集する路上観察を紹介、「フジモリ」の名を世界に知らしめました。

本展では、建築写真、建築模型、プロジェクト模型『東京計画2107』、スケッチ、屋根・壁・左官の材料見本、家具に加え、藤森照信自身が撮影した茅野市での幼少期に、影響を受けた風景や素材の写真、ワークショップの一般参加者と地元の職人が地域の素材を用いて制作した藤森照信設計の茶室『空飛ぶ泥舟』を展示しました。

また、路上観察学会メンバー（赤瀬川原平、藤森照信、南伸坊、松田哲夫、林丈二）が茅野で採集した物件（写真）の展示や品評会、路上観察のレクチャー、一般公募による『諏訪の路上観察』物件の選定・品評をおこないました。

さらに会期中、フロッタージュの手法を用いて「都市の記憶」や「歴史の痕跡」を擦りとり、作品制作を行う美術家・岡部昌生や、藤森照信と同じ諏訪地域の下諏訪町で育った現代を代表する建築家・伊東豊雄を招き、トークセッションをおこないました。

展覧会に加え、これらの関連企画とともに、藤森照信の中にある諏訪の記憶、人々の中にある地域の記憶、そして地域の中に潜む記憶をみつめながら、藤森照信とその建築の全貌に迫る機会になったと思います。



空飛ぶ泥舟 2010年

茅野市美術館アート×コミュニケーション#2 岡部昌生フロッタージュ・プロジェクト2010 <諏訪をめぐり、縄文にふれる>

今年度で2回目を迎える茅野市美術館アート×コミュニケーションでは、2007年第52回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示作家であり、日本のみならず世界各地でフロッタージュの手法を用いて「都市の記憶」や「歴史の痕跡」を擦りとり、作品制作をおこなう岡部昌生（美術家・札幌大谷大学教授）を招き、諏訪地域在住の市民を対象としたフロッタージュ・プロジェクトをおこないました。また、3月19日（土）から4月3日（日）にかけて、茅野市美術館で成果として展覧会を開催します。会場では諏訪地域の博物館をめぐりながら美術家・参加者が制作した作品、美術家と参加者との共同制作作品、美術家が諏訪地域の土によって制作した作品、映像記録としてのアーカイブ、関連資料を一同に展示します。

『諏訪をめぐる』連携プログラムでは、尖石縄文考古館、八ヶ岳総合博物館、諏訪市博物館、下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館、岡谷蚕糸博物館・岡谷美術考古館の5館にご協力いただき、様々なプログラムをおこないました。

10月31日（日）に尖石縄文考古館でおこなった『縄文土器にふれる』では縄文文化についてのお話を功刀司学芸員から伺った後、尖石縄文考古館収蔵の縄文土器片の上に紙を当て、鉛筆やクレヨンを使って土器片の表面を擦りとりました。土器片を直接手に取った時の感触に驚いたと話すワークショップ参加者の方々も多く、制作した作品は考古館周辺の森が見えるガラス面に展示し、紙の上に擦りとられた縄文土器片の文様の複雑さに、皆見入っていました。



尖石縄文考古館 フロッタージュ制作風景

11月23日（火・祝）『八ヶ岳総合博物館を発掘する』では八ヶ岳山麓の歴史・民具についてのお話を小林深志博物館係長から伺い、収蔵品の民具を擦りとり、収蔵庫内でフロッタージュ作品の展示をおこないました。



八ヶ岳総合博物館 フロッタージュ制作風景

縄文土器や民具は、当時の暮らしを反映しているものもあります。5000年前から現在まで、この土地に暮らす人々の生活に根付いた美意識が様々なかたちで表現されています。昔の人たちは、土器や民具をどんなふうに使っていたんだろう？ぜひ博物館で展示品を前にして、そんな視点で見てみてはいかがでしょうか。

今回のプログラムをきっかけにして、諏訪六市町村の美術館・博物館同士が協力し合い、諏訪地域の各地に『諏訪の首飾り』をつないでいくことができればと思います。

文化財の「保存処理」

尖石縄文考古館には、多数の考古資料が収蔵されています。一口に考古資料といっても、様々な材質の資料があります。皆さんによく知られている考古資料は土器と石器です。しかし実際には旧石器時代あるいは縄文時代から、木を使った道具や植物の纖維などを利用した縄や布が使われおり、弥生時代には青銅器、鉄器などの金属が使われるようになります。

残念なことに火山灰台地が多い茅野市の遺跡では、こうした遺物は腐食してしまうためあまり見つかりません。植物が火にかかり「炭化物」となった場合、あるいは腐食しにくい環境に遺跡があった場合にわずかに発見されます。断片的に残る、土器や石器以外の資料は、原始・古代の世界について豊かな情報を与えてくれます。

しかし木器や金属器は、発掘したあとも保管環境に気を配らなければどんどん傷んでいきます。そのため、考古館では資料の状態をみながら、これ以上傷むことがないように遺物の保存処理を行っています。保存処理することで遺物の資料の劣化を防ぎ、強度を増すことができます。その結果、ようやく貴重な資料を皆さんに見ていただくよう展示することができる状態になるのです。

今年度尖石縄文考古館では、湖東地区の中ッ原遺跡で発見された浅鉢8点の保存処理・修復を行いました。この浅鉢は、約4000年前、墓穴に人を葬った時に遺体の頭にかぶせたものです。重要文化財「仮面の女神」が埋められた穴が、墓穴であったことを証明する貴重な資料であり、やはり重要文化財に指定されています。非常に薄手な土器で、「仮面の女神」とよく似た繊細な文様で飾られています。今回の保存処理は、この貴重な浅鉢が壊れてしまうことがないように強化するために行いました。またこの浅鉢には、火にかかったと思われる痕跡や、煤か物を煮たときの吹きこぼれ、あるいは塗料のようにみえる黒い付着物がついています。もともと浅鉢は、その形が現在の鉢や皿に似ているため物を盛る道具と考えられることが多かった土器です。しかし、物を盛るためだけに使われたのなら黒い付着物はつくことはあまり考えられません。ではなぜ黒い付着物がついた浅鉢を死者の顔にかぶせられたのでしょうか。これは今後の大きな研究課題です。そのため黒い付着物が落ちてしまわないように、浅鉢の表面にも樹脂を塗り、しっかりと保存するようにしました。



中ッ原遺跡「仮面の女神」と浅鉢の出土状況

また今年度はもう1点、湖東地区の新井下遺跡で発掘された小型の土器と軽石の器に土の塊を詰めた資料の保存処理を行いました。この資料は、八ヶ岳山麓がまさに繁栄を迎えるようとする約5000年前、つまり国宝「縄文のビーナス」がつくられる時期の直前の年代を示しており、一緒に土偶の頭部も発見されました。全国的にも例がないと思われる資料です。縄文人が食べ物を盛った器をまねて作ったもので、土偶とともにおまつりに使った可能性があるものです。器に盛られた土の塊は焼かれていないので、非常にもらく保管が難しいものでした。また土器も傷みが激しかったため、土器の復元修理と土の塊の強化を行いました。

茅野市には、ほかにも保存処理をした遺物があります。例えば、豊平地区の塩ノ目尻遺跡で見つかった炭化した柱、「仮面の女神」が出土した中ッ原遺跡の住居址に残っていた敷物のような編み物です。これは縄文時代の住居の作り方や使い方を考える上で貴重な資料です。この他にも、弥生時代の農具やハシゴ、古墳時代の武具や馬具、呪術に使われた人形など興味深いものがいくつもあります。特別展示や常設展示で随時公開していますので、興味のある方はご覧いただければと思います。（尖石縄文考古館）



新井下遺跡出土の軽石製品、小型土器と土塊

守矢史料館が開館20周年を迎えました

平成3年に開館してから守矢史料館が20周年を迎えました。これまで、多くの方にご来館いただきましてありがとうございます。

開館20周年を記念し、企画展「守矢史料館周辺の文化財」を平成22年8月7日（土）～9月26日（日）に開催しました。

当館のある高部地区は、諏訪大社上社本宮と前宮の中間にあり、古くから歴史の舞台となってきた場所です。そのため、多くの諏訪大社に関わる神社や古墳などの史跡・遺跡が現在でも残されています。

当館に所蔵している古文書は、高部地区を中心とした地域によって育まれ伝えられてきています。

展示では、高部・安国寺地区で出土した縄文時代から中世の遺物や写真、遺跡にかかる守矢文書の記録を展示しました。

古文書では神社や地名に関する史料や、明治21年（1888）8月27日に小町屋で出土した五輪塔の出土状況に関

する記録について展示しました。

また、イベントとして「守矢史料館周辺を歩こう」を9月11日（土）に開催し、周辺の史跡・遺跡・天然記念物を実際に歩いて、守矢史料館周辺の歴史の理解を深めました。

当日は非常な炎天下で、傘松までは行くことはできませんでしたが、午前10時に守矢史料館を出発し、疱瘡神塚古墳—塚屋古墳—磯並社周辺—夏直路廟（なすぐじびょう）—磯並山の神—頭無古墳跡—狐塚遺跡—峰の湛のイヌザクラまで、約2時間の行程を学芸員が説明しながら歩きました。

平成23年度も「守矢史料館周辺を歩く」を5月28日（土）午前9時から行います。定員は30名、受付期間は5月10日（火）～20日（金）、受付は守矢史料館で行います。連絡先は0266-73-7567です。

また、9月10日（土）にも「諏訪大社上社前宮周辺を歩く」というイベントを開催する予定です。詳細は8月の「広報ちの」をご覧ください。

■文化財係

茅野市尖石縄文検定（初級）を開催しました

尖石縄文考古館では、縄文プロジェクト構想に位置づいている「市民総学芸員」の第一歩として、「尖石縄文検定（初級）」を2月13日（日）に開催し、38名の市民の方々が受験しました。

今回の検定問題は、初級編にふさわしい縄文時代の基礎的な内容について、尖石縄文考古館内の展示物について、茅野市の遺跡についてなど、茅野市の縄文文化の基礎的な事柄に焦点を当てたものでした。これらの設問に解答できれば、茅野市の縄文文化の概要と特に考古館の展示について、市外の人に紹介できる内容の問題として検定を行いました。

今回の検定の大きな特徴は、考古館学芸員を講師に館内展示をめぐりながら、その解説の中に試験問題の解答が隠されているといった仕組みで行われたものでした。茅野市内の遺跡と国指定史跡、尖石遺跡の由来や尖石遺跡を調査された宮坂英式先生に関する設問等、また、与助尾根遺跡に復元されている縄文中期の竪穴住居脇に足を運び、雪景色の縄文の風景を体感してもらうなど、通常の検定にはない雰囲気の中で行われました。

受験者の方々には、約3時間半の短い時間の中でしたが、縄文時代に関する問題に取り組んでいただき、縄文時代の雰囲気を感じるとともに、知識を高めていただけたものと思っております。

優秀な成績をおさめた初級認定者には「尖石縄文特別学芸員証」を授与し、特別学芸員として活躍してもらうことも考えております。なお、今後中級、上級の尖石縄文検定も実施する予定です。



茅野市の博物館・文化財だより ハケ岳通信 No.29 発行年月日 平成23年3月31日

編集・発行 茅野市ハケ岳総合博物館 〒391-0213 茅野市豊平6983番地 TEL (0266) 73-0300
茅野市美術館 〒391-0002 茅野市塚原1-1-1 TEL (0266) 82-8222
茅野市尖石縄文考古館 〒391-0213 茅野市豊平4734-132 TEL (0266) 76-2270
茅野市神長官守矢史料館 〒391-0013 茅野市宮川1389番地の1 TEL (0266) 73-7567